



# 消防大学校だより

## ■ 新任消防長・学校長科における教育訓練

消防大学校では、消防業務の従事経験が少ない一般行政職出身の新任消防長及び消防学校長が、その職に求められる能力を総合的に修得することを目的とした「新任消防長・学校長科」を設置しています。令和7年度の「新任消防長・学校長科（第35期）」では、5月8日（木）～5月20日（火）の13日間に及ぶ全寮制での集合研修を受け、47名が無事卒業しました。

研修では、池田消防庁長官による講話を始め、吉田全国消防長会会長や消防庁幹部による最新の消防行政の動向に関する講義のほか、一般行政職出身という同じような境遇の小松市消防本部の西村消防長、元宮城県消防学校長の豊嶋宮城県危機管理監を講師にお招きしました。また、奥能登広域圏事務組合消防本部の平岡参与（前消防長）、元熱海市消防本部消防長の植田氏を講師にお招きし、消防行政をけん引するリーダーとしての対応や大規模自然災害（震災と土石流）の指揮活動等の経験談をお話いただきました。さらに、人材確保や財源創出、人材育成やハラスメント対策など消防行政が抱える多くの課題に対する討議（プレゼンテーション）、消防職員の基本動作である消防訓練礼式の習得など、数多くのカリキュラムを受講し、消防組織のトップとしての職責を再認識するとともに、リーダーとしての心構えについて学んでいただきました。

一方、「実科」として、実火災体験型訓練（危険物火災）の見学を通じて消防職員の過酷で危険な現場活動の実態を理解するとともに、安全管理の重要性を認識していただきました。また、大規模地震時における常備消防と消防団との連携を想定した「指揮シミュレーション訓練」により、消防団との連携の重要性について理解を深めるとともに、指揮者の迅速で正確な状況把握や決断の難しさを認識していただきました。

さらに、「危機管理広報」では、組織内で不祥事等が発生したとの想定で報道対応シミュレーション（デモンストレーション）を行い、適切かつ正しく伝わる広報技術の向上を図りました。



訓練礼式



実火災体験型訓練（危険物火災）



指揮シミュレーション訓練



危機管理広報

研修を終えた学生からは、「消防行政の最新情報や消防職員の育成に関する具体的な取組について多くのことを学ぶことができた。特に災害対応の分野では、他自治体の経験を参考に、迅速かつ的確な応急対応の戦略について深く考察できた。」「実際の災害において、現場の職員が有機的に活動展開するための指揮・命令の要領や受傷者及び殉職者を発生させないための安全管理こそが、組織の最も重要な機能であることを再認識した。」「訓練礼式や指揮訓練、消防行政を遂行する上での心構え、リスクマネジメント、ハラスメント対策等、幅広い分野に

ついて体系的に学ぶ良い機会となった。」など、学生相互の交流を含め、教育科目全般が有益であったと評価する意見が多数寄せられました。

今後は、卒業された皆様が一般行政職員の幹部としての経験・知見に加え、「新任消防長・学校長科」で習得した知識と技術を遺憾なく発揮し、地域住民が安心して暮らせる災害に強い安全なまちづくりの実現に向け、大いに活躍されることを期待いたします。

## 令和7年度 消防大学校 客員教授について

消防大学校では、消防に関し特に優れた知識及び経験を有する方に対し、客員教授の称号を授与し、消防大学校における教育等に対してご協力をいただいています。

このうち下表の方々については、消防学校及び消防本部における教育訓練の講師としても御協力いただけるこ

とになっておりますので、教育訓練等の講師選定の参考として紹介します。

客員教授への講師依頼・日程調整等については依頼元が直接行うとともに、当該依頼に係る費用を御負担ください。

専門分野・講義実績等	氏名	所属・職名
教育技法	山崎 洋史	仙台白百合女子大学教授
組織管理	新井 雄治	元東京消防庁消防総監
消防実務法規	秋山 恵	元東京消防庁理事兼総務部長
予防法令運用	荒井 伸幸	元東京消防庁理事兼総務部長
地域防災	瀧本 浩一	山口大学大学院創成科学研究科准教授
惨事ストレス対策	松井 豊	元筑波大学名誉教授
危機管理	鈴木 洋	元横浜市消防局長
消防広域化、防災・危機管理	長谷川 彰一	元消防庁次長、内閣府審議官（防災）

※客員教授の連絡先については、消防大学校担当者までお問い合わせください。

### 問合せ先

消防大学校教務部  
TEL:0422-46-1712